



みどりの風

URL : <https://dai5-jh.musashino-city.ed.jp/>

武蔵野市立第五中学校
学校だより第6号

令和8年8月27日

「人間力」を高めよう「みんなが輝く武蔵野五中」つよく、かしこく、あたたかく

実り多い2学期にしよう (2学期始業式講話)

校長 久山 洋介

夏休みが終わりました。私の感覚では「あっという間」でした。夏休み中も三者面談や補習教室、部活動などで頻繁に学校に通っていた人もいたと思います。また、ジャンボリーや関八まつり、ラジオ体操など地域の行事にボランティアで参加してくれた人もたくさんいました。もちろん、家族や友達と出かけたりして夏の思い出を作った人もたくさんいるでしょう。3年生は「これまでの人生の中でこんなに勉強したことはない」というくらい夏季講習などで勉強漬けの人もいたのでしょうか。今年の夏はここ数年に比べるとやや涼しいと感じられる日もあり、比較的過ごしやすかったですね。ともかく、今日皆さんと2学期のスタートを無事に迎えられたことを嬉しく思います。

さて、ここ数年、夏休みの期間中には、毎年必ずといっていいほど、自然災害のニュースがありますが、今年もやはりそうになってしまいました。7月末には熊本県で大きな地震があり、ショッピングセンターのガス爆発なども起きて、多くの方が亡くなりました。現地では今もお余震や厳しい暑さの中で復旧活動や避難生活が続いています。また、8月中旬には千葉県で豪雨災害があり、多くの家屋や自動車が冠水しました。河川等があふれる「外水氾濫」ではなく、想定以上の降雨により、下水道の排水が間に合わずに起きる「内水氾濫」が今回の被害の原因だったとされており、同様の被害は全国どこでも起きる可能性があると言っています。これらの自然災害は決して他人事ではありません。私たちが暮らす東京でも、つい先日、深夜に大きな地震がありました。緊急地震速報の大きな音で驚いた人もたくさんいるでしょう。

こうした災害が起きるたびに、私たちは多くのことを教えられます。1つは「当たり前」の日常がいかに貴重であるかということです。朝起きて学校に来ること。友達や先生と笑顔で話すこと。落ち着いた環境で勉強や部活動に取り組めること。家に帰れば食事をして、ゆっくりとお風呂に入り、眠ることができること。これらは決して当たり前ではなく、幸せなことです。

もう一つは「人と人との助け合いの尊さ」です。被災された地域では、今住民の方々やボランティアの方々など支援に当たる多くの方が協力し合い、助け合って生活をしています。

2学期はセカンドスクールや文化発表会など、大小様々な行事があり、仲間と協力して一つのものを創り上げる場面がたくさんあります。時に意見がぶつかり合ったりして悩むこともあるかもしれませんが。そんな時こそ「相手を思いやる気持ち」や「支え合う姿勢」を大切にしてください。困っている友だちがいたらそっと声をかけるような小さな思いやりや、悩んだ時には一人で抱え込まず周りに相談する勇気をもってください。そうすれば、仲間同士の強い絆ができ、学校は安心して生活できる場所になります。

2学期という4か月に渡る長い期間、一日一日を大切にしてお互いを思いやりながら充実した毎日にしていきましょう。お休みモードから学校生活のペースへの切り替えに少し不安を抱えている人もいるかもしれませんが、焦らず、少しずつ生活リズムを整えてください。皆さんの活躍を心から応援しています。

